

1 題材について

対 象 学 年	小学校 第6学年
学 習 指 導 要 領	第5学年及び第6学年の内容 A表現 (1)イ(2)ア、イ(3)イ B鑑賞 (1)ア、ウ
題 材 名	曲の気分やふしの感じをとらえて（全8時間） 【教材名】 表現教材：「メヌエット」「失われた歌」 鑑賞教材：管弦楽組曲「惑星」より「木星」
題 材 目 標	旋律の流れや楽器の音色の特徴など、楽曲の気分や音楽を特徴付けている要素を感じ取るとともに、各パートの役割や、合奏全体の響き合いを感じ取りながら、聴いたり表現を工夫したりしてアンサンブルの楽しさを味わうことができる。
配 慮 事 項	<p>基礎的・基本的な内容の確実な定着の工夫 題材指導計画作成上の工夫（教材選択、教材配列、教材の時間配分等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の感受を基盤とした音楽的能力を高めていくために、一人一人の感性的な側面（抽象的な感想）が、どのような音楽的な要素に基づくものなのかを繰り返し問いかけ、つなげていく場をできるだけ位置付ける。 ・児童の選択能力を高め、同じ曲でも違った響きが生まれるという変化のおもしろさを味わわせるために、アンサンブル活動の中に、旋律の特徴やパートの役割を生かした楽器選びを意図的に位置付ける。 ・演奏を楽しんだり味わったり、より高めたりすることの充実感を味わうことができるようにするよう、個々のもち味（音色に対する感じ方など）を生かしながら協力して合奏を創り上げる場や、仲間の演奏のよさを認め合う場を位置付ける。 <p>単位時間における工夫（音楽活動の基礎的な能力を培う指導・援助等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二重奏の楽譜にさらに新しいパートを付け加えた楽譜を提示し「もっとたくさんのふしが重なって美しい合奏になる」という期待感をもたせる。 ・主旋律と伴奏を録音したテープに合わせてピアノで演奏し、新しいパートのふしを紹介する。 ・「いろいろな楽器の特徴と奏法のポイント」「合奏におけるパートの役割」を提示して、楽器選択の根拠をもつことができるようにする。 ・一人一人が、個々の感受と音楽の要素を結びつけて考えることができるよう、楽器選びの際は、個人で考え決定していく場を位置付け、その後、グループで話し合うようにする。
参 考 資 料	<p>資料1：合奏のふしの役割を示す掲示・いろいろな楽器の特徴と奏法のポイントを紹介する掲示</p> <p>資料2：自分の考えをつくる学習プリント「アレンジカード」</p> <p>資料3：お互いの演奏を聴き合う時の学習プリント「さあ聴こうカード」</p> <p>資料4：曲の気分を感じ取って聴こう「聴き比べカード」</p> <p>資料5：「アレンジカード」班の話し合いのためのカード</p>

2 題材の評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
器楽				
創作				
鑑賞				
内容のまとめりごとの評価規準	<p>【器楽】 創造的に器楽表現にかかわり、器楽活動への意欲を高めるとともに、その経験を生活に生かそうとする。</p> <p>【創作】 創造的に音楽づくりにかかわり、音楽をつくって表現する活動への意欲を高めるとともに、その経験を生活に生かそうとする。</p>	<p>【器楽】 旋律楽器及び打楽器の演奏、簡単な重奏や合奏などによる器楽表現及び楽器の音色のよさや美しさを感じ取るとともに、拍の流れやフレーズ、音の重なりや和声の響きなどを感じ取り、それらを生かした器楽表現の仕方を工夫したり、身体表現したりしている。</p> <p>【創作】 様々なリズムや旋律、曲の構成のおもしろさ、いろいろな声や音の響きのよさや美しさを感じ取るとともに、音楽表現のイメージを膨らませ、それらを生かした音楽作りの仕方を工夫している。</p>	<p>【器楽】 範唱や範奏を聴いたり楽譜を見たりして楽器を演奏するとともに、八長調及びイ短調の旋律を試奏している。また、音色の特徴を生かして、旋律楽器及び打楽器を演奏している。</p>	<p>【鑑賞】 主な旋律の変化や対照、楽曲全体の構成、音楽を特徴付けている要素と曲想とのかかわりに気を付けるとともに、楽器の音色及び人の声の特徴、それらの音や声の重なりによる響きを味わいながら、曲想を全体的に味わって聴く。</p>
題材の評価規準	<p>楽器への理解を深めながら様々な工夫をしてアンサンブルを楽しもうとしたり、自分たちの感じ方や考え方を生かしたりしながら、友達と協力して音楽づくりを進めようとしている。</p>	<p>美しいイ短調の器楽演奏の音色、響きの重なり、曲想の変化に気付いたり、互いに工夫した音楽のよさや美しさを感じ取ったりして、よりよい表現をめざして何度も工夫を重ねている。</p>	<p>イ短調の楽譜の視奏に慣れ親しむとともに、多様な楽器の中から適切な楽器を選択し、響きの充実を図る低音や、副次的旋律を加えて、美しく響き合う音を探りながら表現している。</p>	<p>指揮などの動作をしたり、主な旋律を楽器で演奏したりしながら、楽曲全体の曲想やその変化、音楽のよさや美しさを感じ取って聴いている。</p>

<p>単位時間における具体的な評価規準</p>	<p>楽器やパートへの理解を深め、各パートの特徴にあった楽器を意図的、意欲的に選んでいる。 (器楽)</p> <p>自分たちの考え方や感じ方を生かしながら友達と協力して音楽づくりを進めようとしている。 (創作)</p>	<p>美しいイ短調の器楽演奏の音色や響き、曲想の違いに気付いている。(器楽)</p> <p>旋律の重なりから生み出される響きの美しさを感じ取っている。(器楽)</p> <p>互いに工夫した音楽のよさや美しさを感じ取り、よりよい表現をめざして、何度も工夫を重ねている。(創作)</p>	<p>八長調と比べたりしながら、イ短調の楽譜の視奏に慣れ親しんでいる。(器楽)</p> <p>美しく響き合う音を探りながら適切な楽器を選んで旋律や和音を表現している。(器楽)</p>	<p>指揮などの動作をしたり、主な旋律を楽器で演奏したりしながら、楽曲全体の曲想やその変化、音楽のよさや美しさを感じ取って聴いている。(鑑賞)</p>
-------------------------	---	---	---	---

3 指導と評価の計画 (全8時間)

時	教材	ねらい	学 習 活 動	評価規準	評価方法	指導・援助
1	メヌエット・失われた歌	<p>イ短調の旋律の気分を感じ取ったり、伴奏の響きを味わったりしながら、似ているところや違うところに気付くことができる。</p>	<p>2つの曲のふしの気分を感じ取ろう。</p> <p>「メヌエット」「失われた歌」の2曲を聴いて曲想の違いを感じ取る。</p> <p>聴いて感じ取ったことを、似ている点、違う点に分けてまとめ、発表し合う。</p> <p>感じ取ったものと、音楽の諸要素とのつながりに気付く。</p> <p>2曲の主旋律をリコーダーで吹いてみる。</p> <p>本時を振り返る。</p>	<p><イー> 美しいイ短調の器楽演奏の音色や響き、曲想の違いに気付いている。</p>	<p>観察 ・2曲を比較した記述内容や発言内容から評価する。</p>	<p>似ている点と違う点がはっきりと分かるように音楽の諸要素や、曲想の視点別に板書する。</p>
2		<p>旋律の気分を感じ取って主旋律をリコーダーで演奏することができる。</p>	<p>「メヌエット」と「失われた歌」の主なふしをリコーダーで演奏できるようにしよう。</p>			

		<p>それぞれの主旋律の流れをつかんでリコーダーで演奏できるように練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい拍子、リズム、音程、演奏順序、運指 ソ、跳躍音、ブレス (2曲の主旋律が吹けるようになったら副次的旋律も吹いてみる。) <p>吹けるようになった旋律を気分を感じ取って演奏する。</p> <p>本時を振り返る。</p>	<p><ウー > イ短調の楽譜の視奏に慣れ親しんでいる。</p>	<p>観察 ・自分にあった方法で読譜し、リコーダーで演奏している姿から評価する。</p>	<p>ソや跳躍音の運指(サミング)を抽出練習する。</p>
3	<p>旋律と旋律が重なる響きの美しさを感じ取りながら、二重奏や二部合奏をすることができる。</p>	<p>2曲のパート(主旋律)、パート(副次的旋律)をそれぞれ正しく、気分を感じ取って演奏する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>2つのふしが重なる響きの美しさを味わおう。</p> </div> <p>リコーダー同士の響きの美しさを感じ取りながら演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「メヌエット」と「失われた歌」をリコーダーで二部合奏、二重奏する。 <p>「失われた歌」のパートのどちらかを自分の好きな楽器で演奏できるように練習する。</p> <p>選んだ楽器で演奏して、幾通りかの重ね方を聴き、響きの違いを味わうとともに、グループのアンサンブルの方向を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループとして、どんな感じにしたいか。 ・主旋律のリコーダーに対して、副次的旋律をリコーダー(同種)にするか違う楽器(異種)にするか。 <p>本時を振り返る。</p>	<p><イー > 旋律の重なりから生み出される響きの美しさを感じ取っている。</p>	<p>観察 ・いろいろな重ね方から生み出される響きの変化を感じ取った発言内容から評価する</p>	<p>いろいろな楽器の音色と演奏のポイントを提示する。</p> <p>楽器の選び方や重ね方によって、いろいろな響きが生み出せることに気付かせる。</p>

曲のイメージ、各パートの旋律の特徴や役割、楽器の音色、それぞれが深く結び付いていることに気付き、曲や旋律へのイメージをもとに、根拠をもって楽器を選ぶことができる。

「失われた歌」をリコーダーで演奏する。

各パートのふしにふさわしい楽器を選ぼう。

ふしの役割を知り、主旋律、副次的旋律以外の4パートのふしを聴きながら、それぞれのふしがどんな感じでどんな役割をもっているのかを感じ取る。

4パートのうち、味付け(和音)パート と、土台(低音)パート に合う楽器をみんなで選んで決める。

- ・旋律の特徴や役割を確認し合い
- ・音で確かめながら
- ・比較演奏しながら

残りの2パートにふさわしい楽器を一人一人が根拠をもって選ぶ。

- ・「曲のイメージ」「パートの役割」「音色の特徴」を意識して選んでいく。
- ・学習カードに自分の考えを書き込む。

<アー>
楽器やパートへの理解を深め、各パートの特徴にあった楽器を意図的、意欲的に選んでいる。

観察及び学習プリント・自分なりの根拠をもってパートとパートに合う楽器を選ぼうとしているか、学習プリントへの記述の有無、及び記述内容から評価する。

ふしの役割を提示する。
主旋律を録音したテープに合わせてピアノ演奏し、新しい4つのふしを紹介する。

はじめに2パートの楽器選択を全員で行うことで、学び方に見通しをもたせる。
(A)「こんな感じのふしだから」「(B)「こんな音が表現できる」【C】「こんな楽器を選びたい」(A)(B)【C】を音で具体的に示していく。

楽器選択が進まない子に対して
・課題となるパートのふしが何度も聴けるようにテープを用意する。
・実音にできない子には、教師が弾いて聴かせる。
・(A)(B)【C】のどこでつまづいているかを対話の中で明確にし、補助発問を投げかけて

		<p>グループで楽器を選んだ理由や目的をもって意見を出し合い、共通のイメージをもとに実音で確認しながらグループの方向を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演奏する楽器 ・人数 ・決まったらグループのカードに書き込む。 <p>本時を振り返り、次時の見通しをもつ。</p>			<p>いく。</p> <p>書き込みの一例を実際に音で示し、イメージ通りかどうか確認する。</p>
6	<p>グループで相談したり、他グループのアドバイスを受けていたりして、自分たちの表現に修正改良を加えながら、表現を工夫することができる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>より美しい表現をめざして練習し、自分たちの合奏をつくろう。</p> </div> <p>自分たちが選んだパートの音を実際に出しながら合奏練習に取り組み、よりよい演奏をめざす。</p> <p>中間交流会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアグループ毎に練習の過程を聴き合い、相互評価する。 <p>相互評価を生かして再練習する。</p> <p>本時を振り返る。</p>	<p><イー></p> <p>互いに工夫した音楽のよさや美しさを感じ取り、よりよい表現をめざして何度も工夫を重ねている。</p> <p><アー></p> <p>自分たちの考え方や感じ方を生かしながら友達と協力して音楽づくりを進めようとしている。</p>	<p>観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ練習中の発言内容や、ペアグループ同士の中間交流会の発言内容から評価する <p>観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習中の発言内容や、修正改良を加えながら表現している姿から評価する。 	<p>聴き役をつくって、自分たちの音を客観的に評価しながら進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲のイメージをしっかりと持ち続けるような問返しをする。 <p>練習の中で「声かけ」のよさを価値付けていく。</p>
7	<p>自分たちの考えに、友達の意見やよさを生かしながら、より美しく響き合う合奏をめざし</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>自分たちが選んだ楽器で合奏を仕上げ発表しよう。</p> </div> <p>グループでまとめの練習をし、発表に向けてのリハーサルをする。</p>			

		て表現することができ る。	楽器選びの根拠（理由や目的）をはっきりさせて、自信をもって自分たちの合奏を発表する。 ・聴く側は、発表グループの考えを受け止めた上で演奏を聴き感想を書く。 楽器選びの取組と本時を振り返る。	<ウー > 美しく響き合う音を探りながら適切な楽器を選んで表現している。	観察 ・演奏前の発言内容や演奏そのもので評価する。	グループの最終決定はカードに書いて掲示し、自分たちの演奏と比較しながら聴けるようにする。
8	木星	情景を想像しながらオーケストラのダイナミックな響きを味わったり、曲想の変化を感じ取ったりすることができる。	「木星」を鑑賞し、個々の音楽的な感受をもとに交流する。 （あ）情景の想像や楽曲全体の気分 （い）音楽の要素（調・拍子・旋律・リズム・速度・強弱・楽器の音色・オーケストラの響きなど）での気付き 主な旋律を知り、好きな楽器で演奏してみる。 再び鑑賞し、演奏した旋律がどこに出てくるかを見つけて、味わう。 指揮をしながら聴き、曲想の変化や音楽全体の流れ、オーケストラのダイナミックな響き感じ取る。 本時を振り返る。	<エー > 指揮などの動作をしたり、主な旋律を楽器で演奏したりしながら、楽曲全体の曲想やその変化、音楽のよさや美しさを感じ取って聴いている。	オーケストラの響きや楽曲全体の曲想、及びその変化についての、学習カードへの記入内容や発言内容、及び指揮表現から評価する	（あ）と（い）を分けて感想を板書し、その関連性を明示する。 曲名や作曲者についての簡単なエピソードを紹介し、自由な発想で曲想を捉えるようにする。

4 単位時間の授業展開例

（１）本時のねらい

曲のイメージ、各パートの旋律の特徴や役割、楽器の音色、それぞれが深く結び付いていることに気付き、曲や旋律へのイメージをもとに、根拠をもって楽器を選ぶことができる。

（２）本時の位置

4 / 8時

(3) 展開案

過程	学 習 活 動	評価について	指導・援助
つかむ / 高める /	1 「失われた歌」をリコーダーで演奏する。		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 各パートの「ふし」にふさわしい楽器を選ぼう。 </div>		
	2 「ふしの役割」を知り、主旋律、副次的旋律以外の4パートのふしを聴きながら、それぞれのふしがどんな感じでどんな役割をもっているかを感じ取る。 3 4パートのうち、味付け（和音）パート と、土台（低音）パート に合う楽器をみんなで選んで決める。 <ul style="list-style-type: none"> ・旋律の特徴や役割を確認 ・比較演奏しながら音で確認 		「ふしの役割」を提示する。 主旋律を録音したテープに合わせてピアノで新しい4つのふしを紹介する。 はじめに、2パートの楽器選択を全員で行うことで学び方の見通しをもたせる。 (A)「こんな感じのふしだから」 [B]「こんな音が表現できる」 【C】「こんな楽器を選びたい」 (A)[B]【C】を音で具体的に示していく。
	4 残りの2パートにふさわしい楽器を一人一人が根拠をもって選ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・「曲のイメージ」「パートの役割」「音色の特徴」を意識して選んでいく。 ・学習カードに自分の考えを書き込む。 	<アー > 楽器やパートへの理解を深め、各パートの特徴にあった楽器を意図的、意欲的に選んでいる。 観察、学習プリント 児童一人一人の追求場面で、自分なりの根拠をもってパートとパートに合う楽器を選ぼうとしているか、学習プリントへの記述の有無、及び記述内容で評価する。	楽器選択が進まない子に対して <ul style="list-style-type: none"> ・課題となるパートのふしが何度も聴けるようにテープを用意する。 ・譜面上の音を、実音で表現できない児童に対しては、教師が弾いて聴かせる。 ・ABCのどこでつまづいているかを対話の中で探り、補助発問を投げかけながら、選択の幅を狭めて自己決定させていく。（高いか低いかなめらかなか・どっちの音が合うか？）

ま と め る	<p>5 グループで楽器選択の根拠をもって意見を出し合う。グループとしての共通のイメージをもとに、実音で確認しながらグループの方向を決めていく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各パート担当楽器 ・人数配分 ・決まったら、グループのカードに書き込む。 <p>6 本時を振り返り、次時の活動に見通しをもつ。</p>	書き込みの一例を実際に音で提示してみせ、イメージ通りか確認するとともに、次時の方向付けをする。
------------------	--	---

5 評価の実際と個に応じた指導事例
(1) 本時重点的に取り上げた評価規準

評価規準<アー >

楽器やパートへの理解を深め、各パートの特徴に合った楽器を意図的、意欲的に選んでいる。

(2) 評価の実際

評価の方法

観察及び学習プリントへの記述の有無、及び記述内容で評価

- ・児童一人一人の追求場面で、自分なりの根拠をもって パートと パートに合う楽器を選ぼうとしているか、学習プリントへの記述の有無、及び記述内容で評価した。

判断の事例

「努力を要する状況」(C)と判断

- ・各パートにふさわしい楽器を根拠をもって選ぶことができずに、学習カードに自分の考えを全く記述することができない児童をCと判断した。

「十分満足できる状況」(A)と判断

- ・旋律の特徴(なめらかかはずんでいるか、高い音か低い音か、単音か重音か、のびる音が切れる音か、跳躍しているかないか)にこだわって、それにふさわしいと思う音色を表現できそうな楽器を、譜面上でじっくり考えたり、実際に音を出して比べたりしながら、学習カード(資料2参照)の(A)欄、(B)欄に根拠を位置付けながら、パートとパート楽器を選び出すことができた児童をAとした。また、パートとパートのフレーズの重なりや呼応にまで配慮して楽器を選び出すことができた児童をAとした。

(3) 個に応じた指導の実際(Cと判断される状況への働きかけ)

各パートにふさわしい楽器を根拠をもって選ぶことができずに、学習カードに自分の考えを全く記述することができない児童には、以下のような働きかけをした。

課題となるパートのふしを何度も聴く(テープや教師の範奏)ように促し、ふしの感じを自分の言葉で表せるようにした。自分の言葉で説明できない時は、教師の言葉を選択させながらどんな感じが説明できるようにし、その言葉を学習カードの(A)欄に書き込ませる。

次に（A）欄に記述した感じを出すにはどんな音がよいか、音の高低、音の長さや強さ、音質について対話の中で方向を探り、〔B〕欄に書き込む。

〔B〕欄に記述した音が出せる楽器を一緒に探し、実音で確かめて楽器を決め、【C】欄に書き込む。

以上 ~ の流れで、根拠を明確にした楽器選択を援助する。2パートのうち1つでも自分の考えを記述できればよしとする。

2・各パートにふさわしいと思う楽器を選ぼう。

パート番号	☆パートの役割を 考えてみよう	☆楽器を選択理由を考えてみよう。 「このパートは（A）な感じがするから、 または（A）のように演奏したいから、 （B）のような音が出せる 【C】という楽器で演奏してみたい。」		☆演奏 楽器	人数
	5つの役割から	（A）こんな感じが するから	（B）こんな音が出せる	【C】こんな楽器にしたい	
①	主役 （主旋律）	悲しげで 歌うように 演奏したいから	歌うように美しく 澄んだ音が出せる	リーダー	2
②	脇役 （副次的旋律）	①と掛け合わせたい ①を目立たせたい	①と同じ音の ①と違う音質の	→ リコーダー	1
③	かざり	主役を邪魔する きれいな音だから	そんなに強くない どきどきさせられる	金鼓さん	1
④	味つけ	長く伸びる音が あって続くから	のぼり音が出せる	オルガン	1
⑤	かざり	伸ばしすぎて たから、出た瞬間	ずっと伸ばせる 音が出せる	ビブリアフォン	1
⑥	土台	低くて悲しい感じ がまるから	低い音が出せる	バスマスター	1

<資料1> 揭示物 **合奏における5つの役割**

主役・・・・・・・・曲の中心になるふし、歌の主役のふし（これがないと何の曲だかわからない）=メロディー
(主旋律)

名脇役・・・・・・・・主役と並んで出てきたり、時には追いかけたり、時々出てきて
(副次的旋律) ふしとふしの間をつないだりする、主役以外のふし。

土台・・・・・・・・曲全体を支えてくれる低い音のふし。
(低音部) ベースまたは、バスも言う。

味つけ・・・・・・・・曲に沿って流れる和音の伴奏 = ハーモニー
(和音)

かざりつけ・・・・・・・・曲を引き立てるふしやリズム

揭示物 **いろいろな楽器の特徴と奏法のポイント**

リード系の音

鍵盤ハーモニカ 吹奏楽器・タンギングの工夫・息のコントロールが大事
アコーディオン ベロイングが全ての基本です。変なところで音がとぎれないように。

電子系の音

オルガン 音色選び、音量のバランスに気を付けよう。
低音用オルガン 低音パートの動きが生かせるよ。
その他キーボード いろんな音が選べるよ。

有音程打楽器の音

鉄琴 ビブラフォーンは、大きく余韻が残るよ。音が濁らないようにペダルを上手に使おう。
木琴 マレット(バチ)の種類を替えると音色も変化するよ。

管楽器系の音

リコーダー リコーダーの音の重なりは、響きがとってもきれいだよ。
(金管楽器 ふける子が限られていますが・・・音は1本でも大きいよ。)

『失われた歌』アレンジカード ~曲の気分やふしの感じをとらえて~
 6年組班
 氏名()

1・曲の感じや 曲への思い を書こう。	個人	
	班 全体	

2・各パートにふさわしいと思う楽器を選ぼう。

パート 番号	パートの 役割を 考えてみよう	楽器を選ぶ理由を考えてみよう。 「このパートは(A)な感じがするから、 または(A)のように演奏したいから、 [B]のような音が出せる 【C】という楽器で演奏してみたい。」		演奏 楽器	人数
	5つの役割から	(A) <u>こんな感じが するから</u>	[B] <u>こんな音が 出せる</u>	【C】 <u>こんな楽 器にしたい</u>	
	主役 (主旋律)	悲しげで 歌うよう に演奏したいから	歌うように美しく 澄んだ音が出せる	リコーダー	
	名脇役 (副次的旋律)	と溶け合わせたい ----- を目立たせたい	と同じ音の ----- と違う音質の		

さあ,聴こう!! ~曲の気分やふしの感じをとらえて~

< アンサンブル発表会 >

6年 組 班 ()

1・楽器選びによる音色の違いに注目して聴こう!!

班	それぞれのふしに合った音色かな? (自分たちの音と比べながら)	その他の気づき(奏法やバランス・人数の工夫)
1		
2		
3		
4		
5		
6		

2・学習を終えて(楽器選びへのチャレンジ・班でのアンサンブル・発表・聴き合い)

曲の気分を感じ取って聴こう！！

～曲の気分や
ふしの感じをとらえて～

6年 組 氏名

1・「メヌエット」と「失われた歌」の2曲を聴き比べてみよう。

	曲名 「メヌエット」	曲名 「失われた歌」
曲の気分		
似ている所・ちがう所		
演奏の工夫	こんな風に演奏してみたいな	

2・学習の振り返りをしよう。

